

六つの真理 しんり ドイツ

昔むかしむかし、あるところに、ひとりのお百姓ひやくしやうがいました。仕事しごとがうまくいなくて、しまいに一文いちもんなしになってしまいました。飼かつていた牛も、最後のいっぴきまで売うつてしまいました。お百姓は、もう、どうしていいかわかりませんでした。

あるとき、お百姓は、あてもなく森の中に入いって行きました。泉いずみのほとりまで来ると、とても疲つかれていたので、少し休もうと思いました。

そこへ、ひとりの狩人かりゆうどが近づいてきて、

「あんた、どうしてそんなに悲かなしそうな顔をしてるんだ」とききました。お百姓は、

「聞いたって、あんたにおれを助たすけることなんてできやしない」と答えました。すると、狩人はいいました。

「おれが力になれないと決きまったわけじゃないぞ」

そこで、お百姓は、自分がどんなに貧まずしくて困こまっているか話しました。狩人は、いいました。

「では、今いますぐ、穀物こくもつのいっばいつまった大きなおひつと、お金のいっばいつまった箱はこをやるう。そのかわり、おまえは、三年以内に、六つの古くからの真理をおれに答えるんだ。もし答えられなかったら、おまえはおれのものになる」

お百姓は、それを聞いて、心の中で、

「この狩人は、悪魔あくまにちがいない」と思いました。けれども、

「それじゃ、三年のあいだ勉強して、古くからの真理を見つけよう」といって、この約束やくそくを承知しょうちしました。狩人はすがたを消けしました。

お百姓は、家に帰りました。すると、大きなおひつには、ほんとうに穀物がいっばいつまっていたし、箱には、お金がいっばいつまっていました。そして、おひつも箱も、いくら使なつても中なか身みはからっぽになりませんでした。

お百姓は、もう貧乏びんぼうではなくなりましたが、それでも、今まで通りの質素しっそな生活をしました。そして、箱のお金で、家の前に礼拝堂れいはいどうを建たて、聖せいなる天使てんしの守り神がみをまつりました。ただ、六つの古い真理は、いくら聞いてまわっても、だれも知りませんでした。

約束の三年が、やがて終わろうとしていました。そして、いよいよ悪魔むかが迎えに来るはずの最後の晩ばんになりました。

真夜中の一時間前に、戸をたたく音がしました。お百姓は、びくつとして、

「もう来たのか」と思いました。戸は、二度、三度とたたかれました。お百姓は、しかたなく、「お入り！」とどなりました。入いって来たのは、よれよれの服を着た年とった兵隊へいたいでした。年と

った兵隊は、

「おまえさん、どうしてそんなに悲しそうな顔をしてすわってるんだ」とききました。お百姓は、「兵隊さん、まあ、聞いてくれ。三年前に、ひどい貧乏だったとき、おれは悪魔に助けてもらったんだが、そのとき、ひどい約束をしてしまったんだよ。今夜、おれは、悪魔に、六つの古い真理とは何かを答えなくちゃならないんだ。でも、どこで聞いても、だれも知ってる人はいなかった」といいました。すると、年とった兵隊は、

「六つの古い真理だって？わしが、その悪魔と話をつけてやろう」といいました。

そのとき、戸をたたく音がしました。二度、三度。お百姓は、どぎまぎしながらいいました。

「お入り！」

入って来たのは、悪魔でした。悪魔は、入ってくるなり、

「六つの古い真理とは何か、わかったか」とききました。すると、テーブルの向こうにすわっていた年とった兵隊が、立ち上がっていいました。

「わしが、お百姓さんに代わって答えてやるよ。第一の真理は、人間はひとりぼっちが好きじゃないということだ。第二は、人間は、仲間といっしょにいるのが好きだったこと。第三は、靴屋のいすは三本足ということ。第四は、車は四つの車輪を持っている。第五は、片手には指が五本ある。第六は、一週間は六日、七番目の日曜日は聖者のためのものだ」

これを聞くと、悪魔はびっくりしてとびあがり、いちもくさんに逃げていきました。そのとき、怒りのあまり、おそろしくくさいおならを残していきました。

お百姓は、大よろこびしました。

「兵隊さん、ありがとう。好きなだけ、食べたり飲んだりしておくれ。それに、いつまでもここにいていいよ」と、お百姓がいうと、兵隊はいいました。

「いや、いつまでもおまえのところにはいられないんだよ」

そして、食べたり飲んだりしてから、家を出て行きました。

お百姓は、戸口で兵隊を見送りました。兵隊は、門を出てまっすぐ礼拝堂へ向かい、その中に消えました。お百姓は、やっと、兵隊がだれだか分かりました。

「天使の守り神を礼拝堂にまつておいてほんとうによかった。あれがおれを救ってくれたんだ」

村上郁再話

資料『世界の民話1ドイツ・スイス』小沢俊夫編訳／ぎょうせい